



文化財ニュース いわき

第 75 号

平成 26 年 10 月 10 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

くせはらたてあと ばんじょうち いせき 久世原館跡・番匠地遺跡の発掘調査

—弥生時代の自然流路・平安時代の水田跡の調査—

【現地説明会 平成26年10月11日(土) 10時~12時】

久世原館跡は、いわき市内郷御厩町久世原・番匠地地内に所在します。番匠地遺跡を含め、丘陵と隣接する谷地に遺跡が立地し、今回の調査区は、谷地の最も奥に位置します。両遺跡はこれまで数度にわたって発掘調査がおこなわれており、縄文時代から近世までの遺構・遺物が見つかっています。番匠地遺跡は、福島県内で最初に弥生時代の水田跡が発見された遺跡としても有名です。今回の調査は、いわき市立総合磐城共立病院新病院建設事業に伴って、7月より本格的に発掘調査を開始しました。

調査の結果、弥生時代の自然流路、平安時代の水田跡、中世の土坑が発見されました。また、福島県内では6例目となる弥生時代の人面付土器が出土しました。



上空より見た久世原館跡の調査区



平安時代の水田跡（黒い土の部分が1枚の水田）



水溜め施設に打たれた木杭と板材



水田面の調査風景

平安時代の水田跡

今回の調査では平安時代の水田が14枚見つかりました。水田の形は長方形で、大きさは1枚毎に異なり、5.0m×2.1mから9.0m×4.5mまでありました。これは、水田が谷地の地形に合わせて作られたためと考えられます。水田を区画する^{あぜ}畔、水田に水を引くための水路と水口も^{みなくち}見つかりました。

調査区の東端からは深い穴が見つかりました。穴には木杭を打ち込み、板材が組まれていました。さらに隙間には拳大の礫が詰められて、水を溜めるための施設であったと考えられます。水田の水路に関する施設の可能性が考えられます。

とじておきましょう。

弥生時代の人面付土器

西側の斜面から出土しました。壺の口^{つぼ}に人の顔を付けたもので、粘土紐で眉と鼻を貼り付け、目は太い線で描かれています。目と眉の周りの細い線は当時の人々の入れ墨^{いずみ}の様子を表しているといわれています。



人面付土器の出土状況

このような人面付土器は、東日本の弥生時代の「再葬墓^{さいそうぼ}」と呼ばれるお墓に納められていたことがわかっています。福島県

内では会津・中通り地方に5例があります。浜通り地方では今回の出土が初めてで、全国的にみても大変貴重なものです。写真の資料はお墓から出土したものではありませんが、これまでの久世原館跡・番匠地遺跡の調査成果も含め、いわき市の弥生時代を考える上で重要な発見です。

また、たくさんの弥生土器、石鏃^{せきぞく}・石斧^{せきふ}などの石器、石斧で削られた木材、土製の紡錘車^{ぼうすいしゃ}、ヒョウタンやトチの実などの植物が出土しています。これらの遺物は、自然流路から見つかりました。出土した弥生土器の特徴から、今から約2,300~1,800年前(弥生時代中期~後期)に流路が機能していたものと考えられます。

中世の土坑

谷地部分から土坑が3基確認されました。そのうち2基には土坑の周囲に木杭が打ち込まれていました。

「久世原館」は中世の城館^{じょうかん}であったとされますが、今回は城館に伴う堀切^{ほりきり}や土塁^{どるい}などは見つかりませんでした。

これまでの調査では、中世の建物跡や遺物が見つかり、国産陶磁器だけではなく、中国産磁器も見つかりました。



中世の土坑



昭和62年に見つかった弥生時代の水田跡



昭和61年に見つかった平安時代の印章^{いんしょういがた}鑄型



昭和61年に見つかった中国産青磁^{せいじこうろ}香炉

ま と め

弥生時代については、丘陵から子供のものと考えられる土器を使ったお墓が3カ所確認されています。谷地部の番匠地遺跡では、市道内郷駅平線と国道49号平バイパスの交差点付近で弥生時代中期の水田跡が発見されています。今回見つかった自然流路からも、同時期の遺物が多数出土しており、昭和62年に見つかった水田跡と自然流路が関連していた可能性もあります。

平安時代には、東側の市道番匠地・下馬場線（昭和61年）と北東側の病院駐車場増設工事に伴う発掘調査（平成元年）により丘陵上に竪穴住居跡や鍛冶^{かじ}関連の遺構が多数確認され、青銅製品を作る^{いがた}鑄型も見ついています。

今回見つかった平安時代の水田跡は、南側の市道改良工事に伴う発掘調査（昭和63年）で見つかったものとほぼ同時期と考えられ、当時の谷地を利用した水田が谷奥まで広がっていたことがわかりました。また、水溜めの施設と考えられる同様の遺構も東側の市道番匠地・下馬場線に伴う発掘調査でも数カ所見つかりました。自然湧水を水田に引くために設けられた施設の可能性があります。谷地部周辺が丘陵上に住む人々の生産の場であったと考えられます。

とじておきましょう。